

周波数の国際協調利用促進事業 令和4年度 継続評価結果

案件名		実施期間	評価会での主なコメント	評価点
地上デジタル放送及び4K・8K技術の国際協調利用促進	地上デジタル放送及び4K・8K技術	H29-R04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジルが次世代デジ方式に対する調査、ISDB-T 採用国の課題およびニーズ調査を実施し、ブラジルでは現地放送事業者と協力したリモート支援での実証実験や EWBS 受信環境拡大を目的とした受信実証デモも実施しており、事業計画通り進捗している。</li> <li>・現地での実証実験や調査に適切に活用されたと思われる。</li> <li>・前年度未達成のアンゴラ等への展開。中南米を中心とした EWBS の展開、ブラジルでの高度化対応は、重要案件であるので、妥当であると思われる。</li> <li>・ブラジルの RFP は ITU-R でも共有されており、公共インフラとしての放送分野での標準化活動の調査が重要であることを示したと言える。今後の活動においても油断せず、標準に注力することが必要と思われる。</li> <li>・国際標準化提案部分の目標が未達成のため、この部分の目標達成に向けて努力願う。</li> </ul>	3.8
5G システム関連技術の国際協調利用促進事業	O-RAN 準拠機器を用いたローカル5G技術	R03-R05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイでの実証実験にて調整に時間を要しているが、2カ国での実験・調査を計画に沿って適切に実施されている。</li> <li>・実証実験に係る費用として適切であったと思われる。</li> <li>・タイでの実証試験が安定稼働しないまま、ベトナムに手を広げることに多少の懸念がある。</li> <li>・ローカル5GではなくO-RANの普及が目的であり、最終的にはキャリアに採用されることが目標と考えられる。その点からは、来年度はもう新たな設備追加はないかもしれないが、異なるメーカーの製品を使用していることのPRや対キャリア向けのPRをもっと重視してはどうかと考える。</li> <li>・現在無線設備(4G無線ユニット)の動作不良が原因でローカル5Gネットワークの安定稼働ができていない状況が発生していることは懸念材料である。原因は明らかになっているようなので、年度内に改善することを期待している。</li> </ul>	3.7
気象・防災プラットフォーム技術の国際協調利用促進	ダム管理用雨量レーダー(固体素子型)	R02-R05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイ(RID)側の対応の遅延やコロナ禍等により当初計画より遅れ気味ではあるが、4年計画全体を見たときの現時点までの進捗は十分適切なものと評価できる。成果としては、今年度下期の計画実施が極めて重要であり、期待するところである。</li> <li>・レーダー設備とそれに伴うソフトウェア等を含めたシステムは一般的に高価であり、また設置に伴う費用に大きいものがある。経費は妥当であると思われる。</li> <li>・状況に応じて、適宜、調整されている。現地での今後の設営計画・実験計画に、リスクはある。</li> <li>・データが取得できなかった場合の対応策が課題。価格が半分であれば市場競争力はあると思われる。標準化をアジアのみでなく、世界的に適用されるように進めていただきたい。</li> <li>・定量的な評価項目を設定して評価し、レーダーの有用性を示していただきたい。特にCバンドレーダーに対する優位性を示す必要がある。</li> </ul>	3.7

周波数の国際協調利用促進事業 令和4年度 継続評価結果

案件名		実施期間	評価会での主なコメント	評価点
空港交通システムの高度化技術の国際協調利用促進	地上型衛星航法補強システム (GBAS)	R01-R04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年4月にはバンコクの空港への実証機材設置工事を完了しており、コロナ禍の影響を考慮すると、まずまずの進捗と考えられる。</li> <li>・不安定な経済の影響を、特にこのような海外事業では受けるものと思われるが、概ね順調と判断される。</li> <li>・実証機材の機能検証や設置を実施する期間に相当しており、要した経費は妥当であると判断できる。</li> <li>・電離圏脅威モデルの作成から総合試験及び実証実験までの計画は1年間ではかなりタイトなスケジュールになると想定されるが、必要な工程なので着実に実施されることを期待。</li> <li>・妨害電波の頻度等より詳しい情報が評価に必要。対応策を検討しているようだが原因がわからない場合の対策も同時に明確化していた方がよいのではないか。</li> <li>・標準化に関し「本技術の国際標準化を推進する国際民間航空機関 (ICAO) に対し、実証実験の結果を報告することによる国際標準化への貢献を目的とし、その準備を行う。」とあるが、電波そのものの国際的な標準は結局 ITU-R で行うことになり、ICAO 自身も ITU-R で活動していると思われるので、両方をうまく利用することがよろしいのではないかと。ICAO では、GBAS には GPS と GLONASS を使うこととなっていて本システムでは GPS のみのようだ。一方日本が進める QZSS を使うことは国内では検討されているようだが、タイなどでも可能かどうか。このあたりが技術的な優位性と差別化につながるようであれば標準化をうまく利用することも可能と思われる。現地の関係省庁とも協力して国際的な動きとすれば、最終的な目標達成が容易になるように思われる。</li> </ul>	4.2